

養液土耕栽培トマト 出荷最盛期

[小千谷養液土耕栽培組合]

▶トマトを収穫する生産者の和田さん



小千谷養液土耕栽培組合で、トマトが本格的な出荷シーズンを迎えています。同組合では、生産者6人と2団体が、育苗ハウス8棟（約50坪）でトマト生産を手掛けています。ピーク時には日量約1.8トが出荷され、総出荷量は約24トを見込みます。出荷は10月中旬まで続きます。同組合の和田さんは「品質・収量ともに良いスタートが切れた」と話します。



▲トマトの選果作業

市内圃場でニンジン播種

[小千谷人参生産組合]

▶ニンジンの播種作業をする生産者の国松さん



小千谷人参生産組合は、市内の圃場で、ニンジンの播種作業を行いました。今年産の播種時期は平年通りで、7月下旬から始まり8月下旬まで続きました。同組合では、雪を生かし、秋に収穫したニンジンをいったん、雪の中に貯蔵してから出荷する「雪中にんじん」と、秋に収穫せずに雪の中で越冬させ、雪解けの進む3月下旬から4月下旬に出荷する「雪下にんじん」の

生産に取り組んでいます。小栗田の国松俊輔さんは2日間をかけて、圃場約100坪にニンジンの種をまきました。国松さんは「組合では販路が確立されているので、良い物を作れば確実に収入につながる。高品質なニンジン生産に取り組んでいきたい」と意気込みを話します。

同組合では、生産者12人が690坪でニンジン栽培。平成27年産は100トの出荷を目指します。今年も新たに生産者1人が加わり、品質の良いニンジンの生産拡大に期待がかかります。

サトイモ生産組織指導会 栽培管理要点を共有

[小千谷里芋栽培組合]

7月24日(金)、小千谷里芋栽培組合は、県長岡農業普及指導センター小千谷分室の協力を得て、サトイモの栽培指導会を、JA千谷野菜集出荷場で開きました。生産者やJA担当職員ら11人が参加。良質なサトイモ生産に向け、生産者の圃場を巡回し生育状況を確認するとともに、今後の管理ポイントなどを共有しました。



▶サトイモの生育状況を確認する生産者

同組合では、生産者10人と1団体で、130アールでサトイモを栽培し、14トンの出荷を目指します。

指導会では、同分室の椀澤桃子主査普及指導員が、追肥とハダニやアブラムシなどの害虫対策についてポイントを説明しました。7、8月は肥料の吸収量が多くなる時期です。圃場が乾いていると肥料の効きが悪くなるので、追肥をする場合は畝間のかん水も行い、肥料をしっかりと効かせてほしい」と、対応を求めました。

同組合の組合長で、農事組合法人「うちがまぎ絆」の佐藤正代表は「今後の栽培管理を徹底し、高品質なサトイモの収量アップにつなげてほしい」と呼び掛けました。

バレーボール熱戦

[片貝中央支店]

8月2日(日)、片貝中央支店では、第16回JAFふれあいソフトバレーボール大会を片貝中学校体育館で開きました。

大会には、男子の部11チームと女子の部8チームがエントリーし、組合員や地域住民ら300人余が参加。トーナメント方式で全28試合を行いました。男子の部では、町裏男子チームが優勝し、3連覇を達成。女子の部は二之町・茶畑チームが初優勝に輝きました。



▶3連覇を達成した町裏男子チームの皆さん

このイベントは、支店活動強化の一環で、組合員や地域住民の健康づくりを目的に毎年、開いています。

谷口組合長は「水分を小まめに補給して健康管理に注意し、優勝を目指して頑張ってほしい」とあいさつしました。

優勝した町裏男子チームの太刀川正和監督は「50代の頑張り」と若い世代のチーム加入が優勝につながった。3連覇は本当にうれしい」と喜びを話しました。



▶初優勝に輝く二之町・茶畑チームの皆さん

小千谷市の斎場に車椅子を寄付

【おぢや農林年金受給者連盟】

7月21日（火）、おぢや農林年金受給者連盟は、時水の市営西山斎場などに、車椅子を寄付しました。

同連盟の吉澤勇会長は、同市役所で行った寄贈式で、大塚昇一市長に目録を手渡ししました。社会福祉への貢献が目的です。

寄贈式で吉澤会長は「高齢者のために役立てていた



▶大塚市長に目録を贈る吉澤会長(右)

だければうれしい」と述べ、目録を手渡しました。大塚市長は「高齢化社会になっているため、車椅子の寄付はありがたい」と感謝を表明しました。

また同連盟は、JA新潟厚生連魚沼病院には車椅子と歩行補助車などを、JA越後おぢや訪問介護室に車椅子と血圧計などをそれぞれ贈りました。

同連盟は、農林年金制度の改善推進や受給者相互の親睦を目的とした任意団体で、JA越後おぢやなどの農林漁業団体の元役員でつくりまします。同連盟は平成27年度中に解散することが決まっています。これまで会員から集めた会費を基に、社会貢献をすることになりました。

輸血するときの検査はどんなことあるの？



JA新潟厚生連
魚沼病院
臨床検査技師長
反町彰志

日頃あまり馴染みのない「輸血用血液」のお話をしたいと思います。普段は「愛の献血」という言葉で耳にする献血から供給される血液が、輸血する主体となります。事故による出血や貧血状態の改善、あるいは手術時の出血時に輸血治療が行われます。

血液センターから供給される血液製剤が主体となります。主に赤血球製剤・血漿製剤（凝固因子製剤）・血小板製剤の三種類に分けて使用されていますが、輸血するのはそれぞれの血液成分の不足分を補充することを目的としています。

昭和23年（1950）頃から始まった輸血は、昭和30年代では二人に一人が肝炎に罹りかなり危険な治療でした。最近では年間数例となり約35万件に一件程度です。と言っても他人の血液を入れる行為ですから100%安全とは言えません。

病院の検査科では主に赤血球製

剤の検査が中心となります。重要な血液型であるABO式Rh式血液型を正しく適合させる検査が第一になります。血液型は数百種類にも及びますが輸血上問題となるものは20種類程度です。

どのような方法かというと、患者血清成分と輸血成分を試験管などの中で体内と同じように感度良く反応させて副作用が起きないかを予測検査します。

今まで副作用の大半を占めていた発熱、蕁麻疹等は、新しい製造法によりかなり減少するようになりました。人間の作り出す血液は体内でリサイクルされながら一定期間で生まれ変わり、実に上手く出来ています。

輸血は必要とする患者さんにとって、劇的に回復をみることの出来る治療ですが、あくまで補う治療で、根本の病を治すものではありません。

売血ではなく国民の善意による献血制度により輸血医療は支えられています。毎日医療現場では血液を必要としています。献血行為により他の人を思いやる気持ちは本当にすばらしい事だと感じます。

世知辛い事件の多いご時世ですが、献血は他の人に何かを無償で尽す気持ちが生まれ、優しい気持ちにさせてくれます。いつまでも献血により輸血医療が支えられることを願ってやみません。

あっと驚く！珍しい野菜が大集合

ナニコレ珍発見

組合員や地域の皆さんから今年届いた、おもしろい形・めずらしい形の野菜を特集しました。



アヒルかな？ヒヨコかな？

提供：中野義一さん／山谷

アヒルのような、ヒヨコのような、可愛らしい形をしたジャガイモです。



ダイコンのような白色ニンジン

提供：井佐武司さん／浦柄

珍しい色をしたニンジンです。突然変異なのでしょうか？



魔法の杖

提供：広井シズさん／小栗山

実はアスパラなんです。先が丸まり、魔法の杖のようです。



傘をさす親子のキュウリ

提供：佐藤清三さん／三仏生

親子のキュウリ。傘をさして仲良くおでかけかな。



葉っぱのお手てが生まれました

提供：星野進一郎さん／千谷

キュウリから葉っぱが！お互いに手を伸ばして握手かな。



合体キュウリ

提供：澤中安子さん／土川

2本が合体したキュウリです。夏の猛暑の影響でしょうか？



ナスの親子は仲良しこよし

提供：佐藤績さん／三仏生

親子ナスにそっと寄り添う母親ナスの姿は、まるで人間のようです。



四つ子のナス

提供：山口優さん／鴻巣

4人で元気におしくらまんじゅう。仲良しな兄弟ナスです。



愛のシンボル！ハート形のナス

提供：南雲茂男さん／坪野

ハートマークと非常に良く似た形のナスです。